

基礎基本運動の達成と教育の成果 および教育環境に関する研究

A Study on the “Basic Skill” and the Educational Environment

前 田 佳 奈¹⁾ 畑 攻²⁾ 池 田 延 行³⁾ 水 上 雅 子⁴⁾
成 瀬 美 紀¹⁾ 小野里 真 弓⁵⁾

Kana MAEDA, Osamu HATA, Nobuyuki IKEDA, Masako MIZUKAMI,
Miki NARUSE, Mayumi ONOZATO

Abstract

Today in Japan, Children's physical fitness decline is a serious problem. To solve the problem, this study is focused on the basic skill for sports activities. Such as 50m run, gymnastics, 25m swimming, catching, and kicking. These skill become basics of all sports. The purpose of this study is to clarify that the achievement of the basic skill leads to the improvement of the physical strength and the enjoyment of the pleasure of the exercise. The following management points were obtained:

1. The achievement of the basic skill led to the improvement of the physical strength and the enjoyment of the pleasure of the exercise.
2. For the achievement of basic skill, it is important that a school, home, community, and a company cooperate.

As a future problem, the development of the program which is based on this study, is necessary to acquire basic skill. And also implementation of the program and the verification of the result become necessary. However, the basic skills have to be achieved in the curriculum at the school. Therefore, to make a system which they can learn at school is necessary.

keywords : Basic skill, Children, Management

I. 研究の目的

子どもの体力・運動能力低下やスポーツ活動の2極化が大きな社会問題となり数年が経過し、文部科学省など政策的対応にも変化がみられてきている。

中央教育審議会答申(2002)²⁷⁾では「子どもの体力向上のための総合的な方策について」を取りまとめ、平成16年度より、「子どもの体力向上実践事業」を3ヵ年計画で実践してきた経緯がある。この事業は平成19年3月に終了し、各地域の対象校による取組みの総括・報告が行なわれている。また、平成12年9月に10年計画で策定されたスポーツ振興基本計画(2006)³⁰⁾は、計画策定から5年が経過したことに伴い、平成18年9月に改定が行なわれた。大きく変更となった点として、

改定前は子どもスポーツに関する記述は、3番目に「生涯スポーツ・競技スポーツと学校体育との連携推進」が挙げられていたが、改定後には始めに「スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策」が挙げられ、「子どもの体力について、スポーツの振興を通じ、その低下傾向に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることを目指す」とされた。その目標達成のために必要不可欠である施策として「①子どもの体力の重要性について正しい認識を持つための国民運動の展開②学校と地域の連携による、子どもを惹きつけるスポーツ環境の充実」が挙げられ、「①教員の指導力の向上②子どもが体を動かしたくなる場の充実③児童生徒の運動に親しむ資質・能力や体力を培う学校体育の充実④運動部活動の改善・充実」を基盤的な施策として挙げている。林ら(2007)¹⁰⁾は、遊びをはじめ、様々な運動・スポーツを行うための原点となる動きとして5つの基礎基本運動(50m走、逆上がり、25m水泳、キャッチボール、足でのバス)に着目し、都内の小学生の習熟度状況を明ら

1) 日本女子体育大学(助手)

2) 日本女子体育大学(教授)

3) 国士舘大学(教授)

4) 杉野服飾大学(准教授)

5) 上武大学(講師)

かにし、実践活動を通じて本物志向の基礎基本運動の指導や子どもスポーツに対する効果的な支援が子どものスポーツ教育の充実につながるものとしている。また、平成20年3月に公示された平成23年4月から全面实施される小学校学習指導要領³³⁾では、体育科の目標は「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」こととし、学校教育法によって規定されている「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」ことや「生涯にわたり学習する基盤が培われるようにする」点が明確に示されている。「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ために扱う「基本の運動」の内容として、「走・跳の運動遊び」「力試しの運動遊び」「器械・器具を使っ

ての運動遊び」「用具を操作する運動遊び」「水遊び及び表現リズム遊び」が挙げられている。このことから、今後さらに、学校教育現場において「基礎基本運動」の習得が重視されることが明らかである。

その他の子どもスポーツに関する研究として、前田ら(2006)¹⁶⁾は、子どもを取り巻く環境の中でも、保護者の関わり方が、子どものスポーツ活動に与える影響が大きいことを明らかにしている。

そこで本研究は、基礎基本運動の達成が体力の向上および運動の楽しさの享受に繋がり、教育の成果となることを明らかにし、基礎基本運動の達成に向けた教育環境および今後の子どもスポーツにおけるマネジメントの在り方を考察・検討することを目的とした。

II. 研究の方法

1. 調査項目の設定

本研究では、先行研究で実績のあるスポーツ活動調査をもとにアンケート調査を実施した。調査項目は対象児童の基本特性、スポーツ特性（運動の好き・嫌い、体力に対する自信）、スポーツ活動状況、基礎基本運動（50m走、逆上がり、25m水泳、キャッチボール、足でのパス）の達成度および保護者の運動生活（過去・現在）から設定した。

2. 調査の実施および分析方法

本研究の対象は、東京都区内に所在する小学校3校に通う児童1107名の保護者を対象に、平成18年7月に

アンケート調査を実施し、745名から回答を得（回収率67.3%）、有効回答は680名であった。対象者の基本特性は表1に示した通りである。

なお、本研究では保護者の過去の運動生活6項目を、宇土(1976)⁴⁰⁾の運動者行動論の基本類型であるC運動者(Club)「運動クラブへ所属して運動する」、P運動者(Program)「運動プログラムに参加して運動する」、A運動者(Area)「運動の施設や用具を利用して自由な運動を楽しむ」、S運動者(Stay)「どのような体育事業が打ち出されてもそれに接近、参加の行動を起こさない」の4パターンに分けて分析を行い、必要に応じて χ^2 検定を用いた。

表1 調査対象者の基本特性

N=680		
性別	n	%
男子	338	49.7%
女子	329	48.4%
不明	13	1.9%
学年		
1年生	121	17.8%
2年生	107	15.7%
3年生	130	19.1%
4年生	126	18.5%
5年生	86	12.6%
6年生	110	16.2%

III. 結 果

1. 子どものスポーツ状況

(1)スポーツ活動状況

表2は、子どものスポーツ活動状況を性別に示したものである。まず、全体的に学外の教室やレッスンに参加している子どもが45.0%と多いことがわかる。性別では、「運動らしいことはほとんど行っていない」のは28.9%と0.1%水準で女子の方が有意に高く、「学外のクラブ・チームに所属する」46.4%、「家族で簡単なスポーツをする」36.7%、「よくスポーツをみる」32.0%と男子が0.1%水準で有意に高いことから、男子の方がスポーツ活動に積極的であることが明らかである。

(2)基礎基本運動の達成状況

表3は、子どもの基礎基本運動の達成状況を性別に示したものである。全体をみると50m走、キャッチボール、足でのパスは「ふつう」、「ふつうにできる」

表2 子どものスポーツ活動状況

	男子		女子		全体		χ^2 検定		
	n=338		n=329		n=680		χ^2	DF	P
体育の授業以外ではあまり運動をしていない	49	14.5%	95	<u>28.9%</u>	146	21.5%	20.3607	1	***
学校の運動系クラブに参加している	38	11.2%	35	10.6%	75	11.0%	0.0625	1	n.s.
学校外のクラブやチームに参加している	157	<u>46.4%</u>	25	7.6%	185	27.2%	126.8317	1	***
学校外でスポーツ教室やレッスンに参加してる	145	42.9%	153	46.5%	306	<u>45.0%</u>	0.8767	1	n.s.
家族でキャッチボールなど簡単なスポーツをする	124	<u>36.7%</u>	73	22.2%	200	29.4%	16.8379	1	***
自由時間に個人的に運動している	88	26.0%	80	24.3%	171	25.1%	0.2616	1	n.s.
よくスポーツをみる	108	<u>32.0%</u>	53	16.1%	165	24.3%	22.8534	1	***
その他	3	0.9%	6	1.8%	9	1.3%			

*** P<0.001

表3 子どもの「基礎基本運動」の達成状況

		男子 n=338		女子 n=329		全体 n=680		χ^2 検定
50m 走								
	速いほう	102	30.2%	84	25.5%	189	27.8%	$\chi^2=2.5669$ DF= 3 n.s.
	ふつう	144	42.6%	159	48.3%	311	<u>45.7%</u>	
	遅いほう	79	23.4%	74	22.5%	155	22.8%	
	わからない	13	3.8%	12	3.6%	25	3.7%	
逆上がり								
	うまくできる	70	20.7%	91	27.7%	164	24.1%	$\chi^2=6.6830$ DF= 3 n.s.
	ふつうにできる	84	24.9%	90	27.4%	180	26.5%	
	できない	171	50.6%	139	42.2%	314	<u>46.2%</u>	
	わからない、やったことがない	10	3.0%	7	2.1%	17	2.5%	
	不明	3	0.9%	2	0.6%	5	0.7%	
25m 水泳								
	うまくできる	109	32.2%	106	32.2%	221	<u>32.5%</u>	$\chi^2=0.0747$ DF= 3 n.s.
	ふつうにできる	100	29.6%	97	29.5%	200	29.4%	
	できない	116	34.3%	114	34.7%	233	<u>34.3%</u>	
	わからない、やったことがない	11	3.3%	12	3.6%	24	3.5%	
	不明	2	0.6%	0	0.0%	2	0.3%	
キャッチボール								
	うまくできる	97	28.7%	38	11.6%	138	20.3%	$\chi^2=48.9250$ DF= 3 ***
	ふつうにできる	182	53.8%	176	53.5%	364	<u>53.5%</u>	
	できない	39	11.5%	57	17.3%	98	14.4%	
	わからない、やったことがない	19	5.6%	58	17.6%	79	11.6%	
	不明	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%	
サッカーボールなど足でのパス								
	うまくできる	95	28.1%	21	6.4%	116	17.1%	$\chi^2=90.3415$ DF= 3 ***
	ふつうにできる	205	60.7%	194	59.0%	409	<u>60.1%</u>	
	できない	24	7.1%	50	15.2%	77	11.3%	
	わからない、やったことがない	13	3.8%	64	19.5%	77	11.3%	
	不明	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%	

*** P<0.001

がそれぞれ45.7%, 53.5%, 60.1%と最も多く、逆上がりは「できない」が46.2%と最も多く、25m 水泳に関しては「うまくできる」32.5%と「できない」34.3%と分かれていることがわかる。さらに性別にみると50m 走、逆上がり、25m 水泳では性別による差はみられなかったが、キャッチボール、足でのパスでは、男子の達成度が0.1%水準で有意に高いことを示している。

(3)運動特性と基礎基本運動の達成状況

表4, 5は、子どもの基礎基本運動の達成状況と運動特性をクロス分析した結果を示したものである。運動の好き・嫌い、体力の自信のいずれもすべての種目で有意差が認められ、「運動が好き」または「体力に自信がある」児童ほど、基礎基本運動が達成されている傾向にあることが明らかとなった。

表4 運動の好き・嫌いと「基礎基本運動」の達成状況

		好き n=399	どちらかと 言えば好き n=198	どちらかと 言えば嫌い n=68	嫌い n= 9	χ^2 検定
50m 走	速いほう	152 38.1%	31 15.7%	5 7.4%	0 0.0%	$\chi^2=112.6546$ DF= 9 ***
	ふつう	186 46.6%	95 48.0%	20 29.4%	6 66.7%	
	遅いほう	46 11.5%	66 33.3%	39 57.4%	3 33.3%	
	わからない	15 3.8%	6 3.0%	4 5.9%	0 0.0%	
逆上がり	うまくできる	134 33.6%	26 13.1%	3 4.4%	0 0.0%	$\chi^2=75.0675$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	109 27.3%	56 28.3%	12 17.6%	1 11.1%	
	できない	145 36.3%	105 53.0%	53 77.9%	8 88.9%	
	わからない, やったことがない	8 2.0%	9 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	
	不明	3 0.8%	2 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	
25m 水泳	うまくできる	149 37.3%	55 27.8%	14 20.6%	1 11.1%	$\chi^2=30.6768$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	109 27.3%	66 33.3%	19 27.9%	5 55.6%	
	できない	124 31.1%	72 36.4%	33 48.5%	1 11.1%	
	わからない, やったことがない	17 4.3%	4 2.0%	1 1.5%	2 22.2%	
	不明	0 0.0%	1 0.5%	1 1.5%	0 0.0%	
キャッチボール	うまくできる	112 28.1%	22 11.1%	4 5.9%	0 0.0%	$\chi^2=79.1493$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	215 53.9%	113 57.1%	31 45.6%	2 22.2%	
	できない	35 8.8%	32 16.2%	25 36.8%	4 44.4%	
	わからない, やったことがない	36 9.0%	31 15.7%	8 11.8%	3 33.3%	
	不明	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
サッカーボールなど足でのパス	うまくできる	97 24.3%	19 9.6%	0 0.0%	0 0.0%	$\chi^2=75.6333$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	246 61.7%	116 58.6%	39 57.4%	4 44.4%	
	できない	23 5.8%	32 16.2%	17 25.0%	4 44.4%	
	わからない, やったことがない	33 8.3%	31 15.7%	11 16.2%	1 11.1%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	

*** P<0.001

表5 体力の自信と「基礎基本運動」の達成状況

		自信がある n=198	どちらかと 言えばある n=292	どちらかと 言えばない n=162	自信がない n=21	χ^2 検定
50m 走	速いほう	92 46.5%	76 26.0%	17 10.5%	1 4.8%	$\chi^2=143.0613$ DF= 9 ***
	ふつう	82 41.4%	162 55.5%	54 33.3%	10 47.6%	
	遅いほう	18 9.1%	48 16.4%	78 48.1%	10 47.6%	
	わからない	6 3.0%	6 2.1%	13 8.0%	0 0.0%	
逆上がり	うまくできる	76 38.4%	69 23.6%	16 9.9%	0 0.0%	$\chi^2=67.8010$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	46 23.2%	93 31.8%	35 21.6%	6 28.6%	
	できない	67 33.8%	126 43.2%	103 63.6%	14 66.7%	
	わからない, やったことがない	8 4.0%	2 0.7%	6 3.7%	1 4.8%	
	不明	1 0.5%	2 0.7%	2 1.2%	0 0.0%	
25m 水泳	うまくできる	82 41.4%	91 31.2%	42 25.9%	3 14.3%	$\chi^2=19.7775$ DF= 9 *
	ふつうにできる	51 25.8%	86 29.5%	51 31.5%	10 47.6%	
	できない	54 27.3%	107 36.6%	64 39.5%	6 28.6%	
	わからない, やったことがない	10 5.1%	8 2.7%	5 3.1%	1 4.8%	
	不明	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	
キャッチボール	うまくできる	69 34.8%	51 17.5%	16 9.9%	2 9.5%	$\chi^2=68.77163$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	89 44.9%	179 61.3%	81 50.0%	8 38.1%	
	できない	26 13.1%	26 8.9%	40 24.7%	6 28.6%	
	わからない, やったことがない	13 6.6%	36 12.3%	25 15.4%	5 23.8%	
	不明	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
サッカーボールなど足でのパス	うまくできる	60 30.3%	43 14.7%	12 7.4%	0 0.0%	$\chi^2=80.6541$ DF= 9 ***
	ふつうにできる	112 56.6%	195 66.8%	87 53.7%	10 47.6%	
	できない	14 7.1%	22 7.5%	32 19.8%	8 38.1%	
	わからない, やったことがない	12 6.1%	32 11.0%	30 18.5%	3 14.3%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	

*** P<0.001, * P<0.05

表 6-1 子どものスポーツ活動状況と子どもの「基礎基本運動」の達成状況

		学校の運動系クラブに参加 している n=75		していない n=605		χ^2 検定	学外のクラブ・チームに所属 している n=185		しない n=495		χ^2 検定
50m 走	速いほう	29	38.7%	160	26.4%	$\chi^2=5.2791$ DF= 3 n.s.	66	35.7%	123	24.8%	$\chi^2=9.9635$ DF= 3 *
	ふつう	31	41.3%	280	46.3%		81	43.8%	230	46.5%	
	遅いほう	13	17.3%	142	23.5%		31	16.8%	124	25.1%	
	わからない	2	2.7%	23	3.8%		7	3.8%	18	3.6%	
	不明										
逆上がり	うまくできる	27	36.0%	137	22.6%	$\chi^2=8.8125$ DF= 3 *	47	25.4%	117	23.6%	$\chi^2=0.4849$ DF= 3 n.s.
	ふつうにできる	22	29.3%	158	26.1%		51	27.6%	129	26.1%	
	できない	24	32.0%	290	47.9%		83	44.9%	231	46.7%	
	わからない、やったことがない	2	2.7%	15	2.5%		4	2.2%	13	2.6%	
	不明	0	0.0%	5	0.8%		0	0.0%	5	1.0%	
25m 水泳	うまくできる	37	49.3%	184	30.4%	$\chi^2=24.4292$ DF= 3 ***	79	42.7%	142	28.7%	$\chi^2=14.9084$ DF= 3 **
	ふつうにできる	28	37.3%	172	28.4%		52	28.1%	148	29.9%	
	できない	7	9.3%	226	37.4%		46	24.9%	187	37.8%	
	わからない、やったことがない	3	4.0%	21	3.5%		7	3.8%	17	3.4%	
	不明	0	0.0%	2	0.3%		1	0.5%	1	0.2%	
キャッチボール	うまくできる	27	36.0%	111	18.3%	$\chi^2=18.9934$ DF= 3 ***	70	37.8%	68	13.7%	$\chi^2=61.7552$ DF= 3 ***
	ふつうにできる	36	48.0%	328	54.2%		94	50.8%	270	54.5%	
	できない	2	2.7%	96	15.9%		12	6.5%	86	17.4%	
	わからない、やったことがない	9	12.0%	70	11.6%		8	4.3%	71	14.3%	
	不明	1	1.3%	0	0.0%		1	0.5%	0	0.0%	
サッカーボールなど足でのパス	うまくできる	21	28.0%	95	15.7%	$\chi^2=10.7169$ DF= 3 *	72	38.9%	44	8.9%	$\chi^2=104.2771$ DF= 3 ***
	ふつうにできる	45	60.0%	364	60.2%		102	55.1%	307	62.0%	
	できない	3	4.0%	74	12.2%		8	4.3%	69	13.9%	
	わからない、やったことがない	6	8.0%	71	11.7%		3	1.6%	74	14.9%	
	不明	0	0.0%	1	0.2%		0	0.0%	1	0.2%	

*** P<0.001, * P<0.05

表 6-2 子どものスポーツ活動状況と子どもの「基礎基本運動」の達成状況

		教室やレッスンに					家族で簡単なスポーツを				
		通っている		通っていない		χ^2 検定	している		しない		χ^2 検定
		n=306		n=374			n=200		n=480		
50m 走		86	28.1%	103	27.5%	$\chi^2=0.6602$ DF= 3 n.s.	64	32.0%	125	26.0%	$\chi^2=4.4029$ DF= 3 n.s.
	速いほう	137	44.8%	174	46.5%		90	45.0%	221	46.0%	
	ふつう	73	23.9%	82	21.9%		42	21.0%	113	23.5%	
	遅いほう	10	3.3%	15	4.0%		4	2.0%	21	4.4%	
	わからない										
逆上がり		88	28.8%	76	20.3%	$\chi^2=11.3421$ DF= 3 *	54	27.0%	110	22.9%	$\chi^2=2.7719$ DF= 3 n.s.
	うまくできる	84	27.5%	96	25.7%		56	28.0%	124	25.8%	
	ふつうにできる	126	41.2%	188	50.3%		87	43.5%	227	47.3%	
	できない	4	1.3%	13	3.5%		3	1.5%	14	2.9%	
	わからない、やったことがない	4	1.3%	1	0.3%			0.0%	5	1.0%	
25m 水泳		121	39.5%	100	26.7%	$\chi^2=24.5826$ DF= 3 * * *	76	38.0%	145	30.2%	$\chi^2=4.0833$ DF= 3 n.s.
	うまくできる	94	30.7%	106	28.3%		54	27.0%	146	30.4%	
	ふつうにできる	87	28.4%	146	39.0%		62	31.0%	171	35.6%	
	できない	3	1.0%	21	5.6%		7	3.5%	17	3.5%	
	わからない、やったことがない	1	0.3%	1	0.3%		1	0.5%	1	0.2%	
キャッチボール		58	19.0%	80	21.4%	$\chi^2=1.2614$ DF= 3 n.s.	63	31.5%	75	15.6%	$\chi^2=44.1626$ DF= 3 * * *
	うまくできる	162	52.9%	202	54.0%		114	57.0%	250	52.1%	
	ふつうにできる	48	15.7%	50	13.4%		18	9.0%	80	16.7%	
	できない	37	12.1%	42	11.2%		5	2.5%	74	15.4%	
	わからない、やったことがない	1	0.3%	0	0.0%		0	0.0%	1	0.2%	
サッカーボールなど足でのパス		51	16.7%	65	17.4%	$\chi^2=0.6856$ DF= 3 n. s.	41	20.5%	75	15.6%	$\chi^2=30.7897$ DF= 3 * * *
	うまくできる	182	59.5%	227	60.7%		141	70.5%	268	55.8%	
	ふつうにできる	38	12.4%	39	10.4%		11	5.5%	66	13.8%	
	できない	35	11.4%	42	11.2%		7	3.5%	70	14.6%	
	わからない、やったことがない	0	0.0%	1	0.3%		0	0.0%	1	0.2%	

*** P<0.001, * P<0.05

(4)スポーツ活動状況と基礎基本運動の達成状況

表6-1, 6-2は, 子どもの基礎基本運動の達成状況をスポーツ活動の有無別に示したものである。表6-1より, 学外のクラブ・チームに所属している児童の88.6%がキャッチボールを達成しているのに対し, 所属していない児童は68.2%と所属している児童の方が有意に高い結果を示している。また, 足でのパスに関しても同様の結果である。つまりキャッチボール・足でのパスは学外のクラブ・チームに所属している児童ほど達成率が高いことが明らかである。

表6-2より教室やレッスンに通っている児童の70.2%が25m水泳を達成しているのに対し, 通っていない児童は55.0%と有意に高い結果を示している。このことから水泳に関しては教室やレッスン活動に積極的な子どもほど達成率が高いことが明らかである。また, 家族で簡単なスポーツをしている児童はキャッチボールと足でのパスで有意に高い結果を示していることから, この2種目に関しては家庭でのスポーツ活動が良い影響を与えていることが明らかである。

2. 保護者の運動行動が子どもに及ぼす影響

(1) 保護者の運動行動（過去）と子どものスポーツ活動状況

表7は, 子どものスポーツ活動状況を保護者の過去の運動行動別に示したものである。「体育の授業以外ではあまり運動をしていない」児童の保護者はS運動者が33.3%と他の運動者に比べ高い値を示している。「学校外のクラブやチームに参加している」「自由時間に個人的に運動をしている」「よくスポーツをみる」児童の

保護者はP運動者が40%以上と高い値を示している。このことから, 子どもが運動をするかしないかは保護者の過去の運動経験が影響し, 活動内容に関しては保護者の運動行動が影響することが示された。

(2) 保護者の運動行動（過去）と基礎基本運動の達成度

表8は, 子どもの基礎基本運動の達成状況を保護者の過去の運動行動別に示したものである。50m走と逆上がりでは保護者の影響がなく, 25m水泳, キャッチボール, 足でのパスでは保護者の影響があることが示されている。25m水泳では, C運動者・A運動者の子どもが高い達成度を示し, S運動者が低い達成度を示した。キャッチボール, 足でのパスではC運動者・P運動者・A運動者の子どもがキャッチボールでは70%以上, 足でのパスでは80%以上とS運動者の子どもに比べ高い達成度を示している。このことから50m走や逆上りのような達成志向の基本運動には, あまり保護者の運動経験が関与しないのに対し, 対人的・社会性が前提となる運動では, 保護者の運動経験が関与することが明らかとなった。

(3) 保護者の運動行動（現在）と基礎基本運動の達成度

表9は, 子どもの基礎基本運動の達成状況を保護者の現在の運動状況別に示したものである。また, 図1, 2, 3は, 保護者の現在のスポーツ特性3項目「体力の自信」, 「運動の得意・不得意」, 「スポーツをみる」と基礎・基本運動の達成度との関係のうち, 有意差があったものを示したものであり, 表10は, それらの結果をまとめたものである。

表7 保護者の過去の運動活動と子どものスポーツ活動状況

	C運動者		P運動者		A運動者		S運動者		χ^2 検定		
	n=524		n=17		n=19		n=108		χ^2	DF	P
体育の授業以外ではあまり運動をしていない	102	19.5%	3	17.6%	2	10.5%	36	<u>33.3%</u>	11.7841	3	**
学校の運動系クラブに参加している	62	11.8%	0	0.0%	1	5.3%	11	10.2%	3.1599	3	n.s.
学校外のクラブやチームに参加している	151	28.8%	8	<u>47.1%</u>	5	26.3%	19	17.6%	9.0658	3	*
学校外でスポーツ教室やレッスンに参加してる	239	45.6%	11	64.7%	9	47.4%	41	38.0%	4.9498	3	n.s.
家族でキャッチボールなど簡単なスポーツをする	154	29.4%	6	35.3%	7	36.8%	30	27.8%	0.9241	3	n.s.
自由時間に個人的に運動している	144	27.5%	7	<u>41.2%</u>	3	15.8%	13	12.0%	14.6313	3	**
よくスポーツをみる	135	25.8%	8	<u>47.1%</u>	5	26.3%	16	14.8%	10.6240	3	*
その他	6	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%			

** P<0.01, * P<0.05

表8 保護者の過去の運動行動パターンと「基礎基本運動」の達成状況

		C 運動者 n=524	P 運動者 n=17	A 運動者 n=19	S 運動者 n=108	全体 n=680	χ^2 検定
50m 走	速いほう	152 29.0%	6 35.3%	5 26.3%	22 20.4%	189 27.8%	$\chi^2=12.2690$ DF= 9 n.s.
	ふつう	237 45.2%	7 41.2%	7 36.8%	55 50.9%	311 45.7%	
	遅いほう	117 22.3%	2 11.8%	8 42.1%	26 24.1%	155 22.8%	
	わからない	18 3.4%	2 11.8%	0 0.0%	5 4.6%	25 3.7%	
逆上がり	うまくできる	133 25.4%	4 23.5%	4 21.1%	21 19.4%	164 24.1%	$\chi^2=7.0755$ DF= 9 n.s.
	ふつうにできる	137 26.1%	3 17.6%	6 31.6%	32 29.6%	180 26.5%	
	できない	239 45.6%	10 58.8%	10 52.6%	49 45.4%	314 46.2%	
	わからない, やったことがない	11 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 4.6%	17 2.5%	
	不明	4 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	5 0.7%	
25m 水泳	うまくできる	185 35.3%	8 47.1%	8 42.1%	18 16.7%	221 32.5%	$\chi^2=24.0816$ DF= 9 * *
	ふつうにできる	152 29.0%	2 11.8%	6 31.6%	38 35.2%	200 29.4%	
	できない	167 31.9%	7 41.2%	4 21.1%	49 45.4%	233 34.3%	
	わからない, やったことがない	19 3.6%	0 0.0%	2 10.5%	2 1.9%	24 3.5%	
	不明	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	2 0.3%	
キャッチボール	うまくできる	111 21.2%	6 35.3%	4 21.1%	14 13.0%	138 20.3%	$\chi^2=22.4979$ DF= 9 * *
	ふつうにできる	285 54.4%	10 58.8%	13 68.4%	51 47.2%	364 53.5%	
	できない	65 12.4%	1 5.9%	2 10.5%	28 25.9%	98 14.4%	
	わからない, やったことがない	62 11.8%	0 0.0%	1 5.3%	15 13.9%	79 11.6%	
	不明	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%	
サッカーボールなど足でのパス	うまくできる	100 19.1%	4 23.5%	2 10.5%	9 8.3%	116 17.1%	$\chi^2=22.6930$ DF= 9 * *
	ふつうにできる	314 59.9%	10 58.8%	16 84.2%	62 57.4%	469 60.1%	
	できない	50 9.5%	1 5.9%	1 5.3%	24 22.2%	77 11.3%	
	わからない, やったことがない	60 11.5%	2 11.8%	1 5.3%	12 11.1%	77 11.3%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	1 0.1%	

* * P<0.01

表9 保護者の現在の運動パターンと「基礎基本運動」の達成状況

		よく運動 している n=71	運動して いる n=102	どちらとも いえない n=138	あまり運動 していない n=187	運動して いない n=175	χ^2 検定
50m 走	速いほう	20 28.2%	33 32.4%	46 33.3%	49 26.2%	40 22.9%	$\chi^2=12.6749$ DF=12 n.s.
	ふつう	32 45.1%	45 44.1%	65 47.1%	84 44.9%	83 47.4%	
	遅いほう	17 23.9%	22 21.6%	23 16.7%	49 26.2%	41 23.4%	
	わからない	2 2.8%	2 2.0%	4 2.9%	5 2.7%	11 6.3%	
逆上がり	うまくできる	22 31.0%	24 23.5%	41 29.7%	41 21.9%	36 20.6%	$\chi^2=9.09760$ DF=12 n.s.
	ふつうにできる	14 19.7%	33 32.4%	35 25.4%	49 26.2%	47 26.9%	
	できない	34 47.9%	42 41.2%	59 42.8%	89 47.6%	85 48.6%	
	わからない, やったことがない	1 1.4%	3 2.9%	3 2.2%	6 3.2%	4 2.3%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.1%	3 1.7%	
25m 水泳	うまくできる	32 45.1%	38 37.3%	51 37.0%	53 28.3%	45 25.7%	$\chi^2=23.0437$ DF=12 *
	ふつうにできる	25 35.2%	27 26.5%	40 29.0%	57 30.5%	48 27.4%	
	できない	13 18.3%	34 33.3%	41 29.7%	69 36.9%	74 42.3%	
	わからない, やったことがない	0 0.0%	3 2.9%	6 4.3%	8 4.3%	7 4.0%	
	不明	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	
キャッチボール	うまくできる	21 29.6%	26 25.5%	30 21.7%	36 19.3%	21 12.0%	$\chi^2=19.7455$ DF=12 n.s.
	ふつうにできる	35 49.3%	52 51.0%	76 55.1%	106 56.7%	93 53.1%	
	できない	8 11.3%	14 13.7%	17 12.3%	22 11.8%	36 20.6%	
	わからない, やったことがない	7 9.9%	10 9.8%	14 10.1%	23 12.3%	25 14.3%	
	不明	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	
サッカーボールなど足でのパス	うまくできる	17 23.9%	17 16.7%	29 21.0%	30 16.0%	21 12.0%	$\chi^2=18.7048$ DF=12 n.s.
	ふつうにできる	38 53.5%	70 68.6%	80 58.0%	110 58.8%	110 62.9%	
	できない	6 8.5%	7 6.9%	19 13.8%	18 9.6%	24 13.7%	
	わからない, やったことがない	9 12.7%	8 7.8%	10 7.2%	29 15.5%	20 11.4%	
	不明	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

* P<0.05

表9、10より、50m走と逆上がりは全ての項目で保護者の影響が認められなかった。表9より、25m水泳ではよく運動を行う保護者の子どもは「うまくできる」が45.1%、運動していない保護者の子どもは「できない」が42.3%とよく運動を行っている保護者の子どもほど達成度が高いことを示している。また、図1より、よくスポーツをみるつまりスポーツへの興味が高い保護者の子どもほど、達成度が高いことも示された。

図2より、キャッチボールの達成度は、体力に自信がある保護者の子どもは「うまくできる」「ふつうにできる」が合わせて約8割を占めるのに対し、体力に自信のない保護者の子どもは6割に満たず、体力に自信のある保護者の子どもほど達成度が高いことが示された。

図3、表10より、足でのパスは運動が不得意な保護者の子どもの達成度が他の群に比べ低く、また体力の自信に関しても同様の傾向であった。

これらの結果は、現在の保護者の運動行動と基礎基本運動の達成状況の関与を明確に示している。また、50m走・逆上がりのような、出来る・出来ないがはっ

きりとしている達成型の運動では保護者の関与はみられず、キャッチボールや足でのパスといった対人の運動に関与がみられた。

体力の自信とキャッチボールの達成度

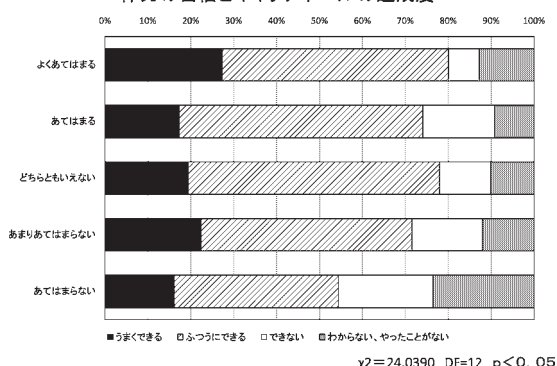


図2 保護者の運動行動(現在)と子どもの基礎基本運動の達成度2

よくスポーツをみる(興味)と25m水泳の達成度

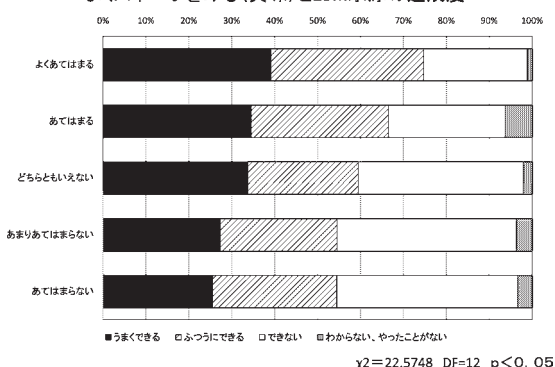


図1 保護者の運動行動(現在)と子どもの基礎基本運動の達成度1

運動の得意・不得意と足でのパスの達成度

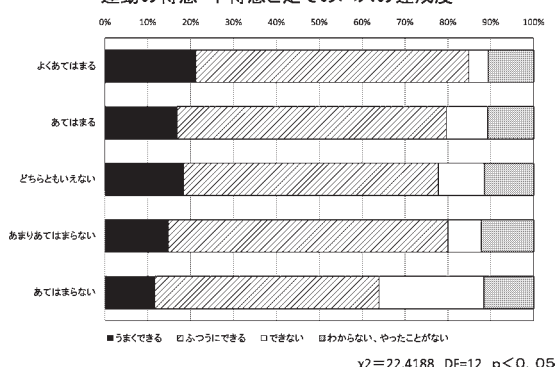


図3 保護者の運動行動(現在)と子どもの基礎基本運動の達成度3

表10 保護者のスポーツ特性と基礎基本運動の達成度 一覧

	50m 走	逆上がり	25m 水泳	キャッチボール	足でのパス
運動習慣の有無	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.
体力の自信	n.s.	n.s.	n.s.	*	*
運動の得意・不得意	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*
スポーツをみる (興味)	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.

* $P<0.05$

IV. 考 察

1. スポーツ活動に及ぼす影響

結果2-(1)から、運動に積極的に関わってきたC運動者の子どもよりも、気軽に運動を楽しんできたP運動者、A運動者の子どもの方がスポーツ活動に積極的であることから、C運動者はつついづい子どものスポーツ活動に口を出してしまう、つまり干渉しすぎてしまっていることが考えられる。しかしS運動者、つまり運動に関わってこなかった保護者の子どもは、親と同様に運動にあまり関わらない傾向である。このことから、保護者は子どものスポーツ活動に関してあまり干渉しすぎない方が良いことが示唆された。

2. 基礎基本運動の意義

結果1-(3)から、基礎基本運動が達成されている子どもほど運動が好き、体力に自信を持っていることから、ある運動が出来るようになることによって体を動かすことが好きになる・体力がつく、運動が好き・体力がつくことによりさらに運動に取り組む、高度な技にチャレンジするといった好循環がうまれることが考えられる。すなわち、基礎基本運動の達成が体力の向上および運動の楽しさの享受に繋がるということが明らかである。また、小学校学習指導要領³³⁾では、子どもたちに身につけさせたい「基本の運動」の内容を、「技能(運動)」、「態度」、「思考・判断」から構成しており、特に「技能」については、「運動の楽しさや喜びを味わわせながら身につけること」を強調しており、「基礎基本運動」の習得が教育の成果として重要であることを示している。

3. 基礎基本運動の達成プログラムの検討

基礎基本運動を達成させるためには適切なプログラムが適切な場で提供されなければならないことから、基礎基本運動に関する分析結果から達成プログラムの検討を行った。

(1) 50m 走と逆上がり

結果2-(2)、(3)から、基礎基本運動のうち、50m 走と逆上がりに関しては、保護者の運動行動の影響や関わりは過去、現在共に認められなかった。このことから50m 走と逆上がりは保護者の協力を頼りにするのではなく、学校で責任を持って習得させることが重要である。

(2) 25m 水泳

結果2-(2)、(3)より、25m 水泳は、過去に運動部など

で運動を行っていたC運動者や自由に運動を行っていたA運動者に良い影響がみられた。また、現在も運動を行っていたり、みることが好きな、スポーツへの関心が高い保護者に良い影響がみられた。また、結果1-(4)からレッスンに通っている子どもほど達成状況が高いことが明らかとなったが、Benesse 教育研究開発センター (2008)¹⁾などの調査で発表されているように、スイミングスクールに通ったことのある子どもは59.9%と体操教室やスポーツ少年団といったスポーツ系の習い事の中でも特に習い事としての人気が高い。このことから、実際問題として水泳は学校で学ぶよりもスイミングスクールで習得する子どもが多いことが示唆される。よって、25m 水泳に関してはスポーツビジネスの手を借りることが有効であると考えられる。

(3) キャッチボールと足でのパス

結果1-(4)より、学外のクラブ・チームに所属している子どもほど「キャッチボール」と「足でのパス」の達成度が高いことが明らかとなったが、このことに関しても25m 水泳と同様に少年野球チームやサッカークラブの存在が大きいことが推測される。地域に根差したスポーツ少年団の協力が有効であることが示唆される。また、結果2-(2)、(3)より、キャッチボールと足でのパスは、過去に、スクールなどで運動を行っていたP運動者や、施設などで自由に運動を行っていたA運動者の子どもに良い影響がみられ、現在も体力や運動に自信がある保護者に良い影響がみられた。さらに、結果1-(4)から家族で簡単なスポーツをする子どもほど達成状況が有意に高いことから、クラブ・チームの影響はもちろんのことだが、家庭での協力も重要であることが示唆された。

4. 基礎基本運動の達成に向けたスポーツ教育環境モデルの検討

図4は、本研究の考察から得られた基礎基本運動の達成のためのスポーツ教育環境モデルを示している。運動の楽しさや体力の向上に繋がる、基礎基本運動の達成プログラムの展開に関しては、学校の現場で全て対応できることが理想ではあるが、実際問題として時間数の不足や指導力の問題等により、対応しきれない部分があることは否めない。その問題の解決策の一つとして、図4のようなスポーツ教育環境モデルが考えられる。これは、学校以外に家庭、地域、ビジネスのそれぞれが強みを生かし、連携し、一体となって子どもスポーツに取り組むことによって、子どもたちが多角

的かつきめ細やかな、充実したスポーツ教育を受けられるようになる。すなわち、基礎基本運動の5種目に関しては学校では「50m走」「逆上がり」、家庭・地域では「キャッチボール」「足でのパス」、ビジネスでは「25m水泳」の達成を目指すことが、現在の子どもが必要とする多様なスポーツ教育環境となることが示唆される。

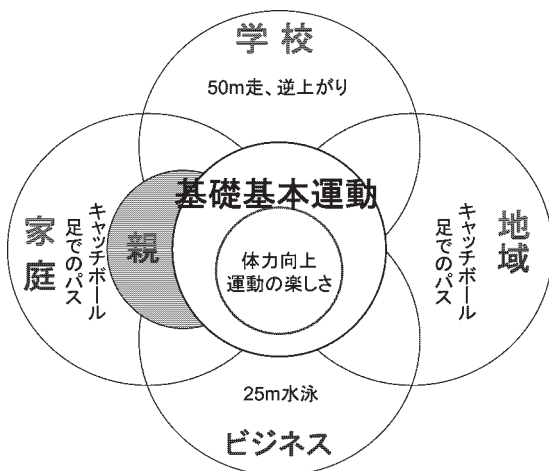


図4 基礎基本運動の達成に向けたスポーツ教育環境モデル

V. 結 論

本研究では、子どもの運動・体力の低下等の問題の解決に向け、様々な運動・スポーツの基礎基本となる運動に着目した。基礎基本運動の達成が教育の成果として体力の向上および運動の楽しさの享受に繋がることを明らかにし、その基礎基本運動の達成を促進させるために必要とされるマネジメントを検討することを目的とした。得られたデータを子どものスポーツ特性および保護者の運動行動と基礎基本運動の達成状況との関係を中心に分析し、考察・検討を行なった。結果は以下のように要約される。

- (1) 本研究で取り上げた基礎基本運動の達成が教育の成果として望まれている体力の向上・運動の楽しさの享受に繋がることが明らかであった。
- (2) 子どもの基礎基本運動の習得のために必要となるスポーツ教育環境を検討した結果、この問題に対しては学校だけではなく、家庭や地域、スポーツビジネスの場が連携し、一体となって取り組むことが重要となることが示された。

今後は本研究で得られた結果をもとに、プログラムの開発や実践的な取組みの実施、およびその成果のさらなる検証が必要となる。また、本研究では、現状においては家庭や地域、ビジネスの手を借りた基礎基本運動の習得に向けた教育環境が必要であることが示唆された。しかし一方で、基礎基本の教育内容の習得は、あくまでも学校の教育課程の中で達成されることが本来の姿であることから、そのような仕組みづくりのための基礎研究も、今後は必要になるものと考えられる。

引用・参考文献

- 1) Benesse 教育研究開発センター (2008) 第3回子育て生活基本調査報告書。
- 2) ベネッセ未来教育センター (2003) 第2回子育て生活基本調査報告書。
- 3) 江田昌佑監修 (1999) スポーツライフ白書：する・観る・視る・読む・支える・話す、ぎょうせい。
- 4) 福本恵美子 (2000) マルチスポーツの実践と可能性に関する研究、日本女子体育大学大学院修士論文。
- 5) 畑 攻、小野里真弓、齊藤隆志、他 (2005) スポーツマネジメントと子どもスポーツネットの企画・運用、日本体育学会第56回予稿集、p.290。
- 6) 畑 攻、宇土正彦、八代 勉 (1984) 運動・スポーツ行動に対する運動者の主体的条件の類型化に関する研究、筑波大学体育科学系紀要、p.11-19。
- 7) 林 邦雄 (2005) 図解子ども事典＜普及版＞、一藝社。
- 8) 林 園子、畑 攻、小野里真弓、他 (2005) 都会における子どもの体力・運動能力向上の取り組みとスポーツスタイル、日本体育学会第56回大会予稿集、p.291。
- 9) 林 園子、畑 攻、小野里真弓、他 (2006) 都内小学校と女子体育大の連携とマネジメント、日本体育学会第57回大会予稿集、p.154。
- 10) 林 園子、畑 攻、前田佳奈、他 (2007) 子どもの基礎基本運動の習熟と生活習慣・運動習慣・意欲に関する研究、日本体育学会第58回大会予稿集、p.242。
- 11) 林 園子、畑 攻、前田佳奈、他 (2008) 子どもスポーツのサービス内容とマネジメント(1)ー子どものスポーツスタイルと運動習熟状況からの検討ー、日本体育学会第59回大会予稿集、p.164。
- 12) 久野 歩 (2006) 学校運動部活動の在り方に関する一考察ーマルチスポーツの概念からのアプローチー、東京学芸大学大学院修士論文。
- 13) 前田佳奈、畑 攻、池田延行、他 (2004) 中学生・高校生の諸特性とマルチスポーツ、日本体育学会大会第55回大会号、p.377。
- 14) 前田佳奈、畑 攻、小野里真弓、他 (2005) 子どものスポーツスタイルと保護者の期待と可能性、日本体育学会 第56回大会予稿集、p.290。
- 15) 前田佳奈 (2006) 子どものマルチスポーツと学校・家庭・社会、日本女子体育大学大学院修士論文。

- 16) 前田佳奈, 畑 攻, 小野里真弓 (2006) 子どもスポーツの学校, 家庭および社会との連携について, 日本体育・スポーツ経営学会第29回大会号, p.37.
- 17) 前田佳奈, 畑 攻, 小野里真弓, 他 (2006) 子どもの体力向上実践事業の取り組みとマネジメント, 日本体育学会第57回大会予稿集, p.154.
- 18) Maeda, K., Hata, O., Onozato, M., et al. (2006) A Study on Management for a Children's Attitude, Behavior and Physical Strength Improvement in an Elementary School., Asian Association for Sport Management 2006.
- 19) 前田佳奈, 畑 攻, 池田延行, 他 (2007) 小学校における都市型連携システムとマネジメント, 日本女子体育大学紀要第37巻, p.75-87.
- 20) 前田佳奈, 畑 攻, 成瀬美紀, 他 (2007) 子どもの体力向上実践事業の成果とマネジメント, 日本体育学会第58回大会予稿集, p.242.
- 21) 前田佳奈, 畑 攻, 成瀬美紀, 他 (2008) 子どもの体力向上実践事業の成果とマネジメントの検討, 日本女子体育大学紀要第38巻, p.69-79.
- 22) 前田佳奈, 畑 攻, 成瀬美紀, 他 (2008) 「JWCPE 子どもスポーツネット」の運用と連携事業ー近隣小学校での実践活動からー, 日本体育学会第59回大会予稿集, p.165.
- 23) 正木健雄 (2003) おかしいぞ 子どものからだ, 大月書店.
- 24) 水上雅子, 畑 攻, 小野里真弓, 他 (2005) 子どもの体力・運動能力向上と都市型連携システム, 日本体育学会第56回大会予稿集, p.291.
- 25) 水上雅子, 畑 攻, 前田佳奈, 他 (2007) 親の運動者行動及び運動生活に関する研究, 日本体育学会第58回大会予稿集, p.242.
- 26) 水上雅子, 畑 攻, 前田佳奈, 他 (2008) 子どものスポーツのサービス内容とマネジメント(2)ー親の運動者行動及び運動生活が及ぼす子どもの体力への影響ー, 日本体育学会第59回大会予稿集, p.165.
- 27) 文部科学省 (2002) 子どもの体力向上のための総合的な方策について (答申), 中央教育審議会.
- 28) 文部科学省 (2004) 平成15年度体力・運動能力調査報告書.
- 29) 文部科学省 (2005) 平成16年度体力・運動能力調査報告書.
- 30) 文部科学省 (2006) スポーツ振興基本計画.
- 31) 文部科学省 (2007) 第5回子どもの体力向上実践事業全国連絡会議, 会議資料.
- 32) 文部科学省 (2007) 教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ, 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会.
- 33) 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説体育編.
- 34) 文部省 (1995) 小学生のスポーツ活動に関する調査研究報告書.
- 35) 武藤芳照 (1989) 子どものスポーツ, 財団法人東京大学出版会.
- 36) 日本学校保健会 (2002) 平成12年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書.
- 37) 佐伯聰夫, 畑 攻, 仲澤 眞 (1998) 地域におけるマルチスポーツクラブの研究, 日本スポーツ産業学会平成9年度プロジェクト研究報告書, p.3-33.
- 38) 佐藤良男, 畑 攻, 齊藤隆志 (2004) 指導者のための体育・スポーツ行政, ぎょうせい, p.14-37.
- 39) 四国スポーツ研究会編 (1992) 子どものスポーツ, その光と影ー生涯スポーツに向けてー, 不味堂出版.
- 40) 宇土正彦 (1976) 体育管理学入門, 大修館書店, p.51-63.
- 41) 山市 孟, 佐藤京子, 橋本香澄 (1999) 体育経営についての基本概念の整理と幼児体育経営についての事例的研究ー特に動機づけに関連してー, 文京女子大学研究紀要第1巻第1号, p.219-235.

(平成20年9月17日受付)
(平成20年12月19日受理)

